

もの言う牧師のエッセー 第142話

「POW」

2009年6月にアフガニスタンの反政府勢力タリバンに捕まり、米兵としてただ一人 POW (Prisoner of war :戦時捕虜) として拘束されていたボウ・バーグドール陸軍軍曹が、去る5月、約5年ぶりに解放されたニュースが全米を駆け巡った。タリバン支配地域である、パキスタン国境付近の東アフガニスタン山岳地帯において、迎えに来た米軍ヘリコプターで移送される彼の姿が何度もニュースで映し出された。「ボウがいない間、彼は決して忘れられることはなかった。アメリカは一人の兵士も戦場に置き去りにはしない！」とオバマ大統領は声明を発表し、ホワイトハウスに彼の両親を招いて祝典が催され、彼の地元、アイダホ州ヘイリー市では歓迎ムード一色となった。

が、どうもこの件に関するその後の評価が宜しくない。まず最初に、米兵1人の釈放と引き換えに、キューバのグアンタナモ米海軍基地内のテロ犯収容施設に収監されていたタリバン幹部5人を“捕虜交換”してカタールに移送したことに共和党幹部らが嘔み付いたのをはじめ、大統領が彼ら5人を釈放する際、議会に通告する義務を忝り独断で動いたこと。さらには、バーグドール軍曹は捕まったのではなく、実は自らキャンプの外に出て脱走したのではないかとの疑惑も持ち上がり、マスコミや世論が激しくオバマ氏にバッシングし始めた。だが現在のところ彼は動じていない。実はこの騒動は、神の祝福の“外に出て”自ら罪に落ち込んだ人類と、わざわざ神が御子であるキリストを差し出し“交換”して人類を罪から救済した、「墮罪から救済」までのストーリーに驚くほど似ている。まだある。それは

「時に主は大祭司ヨシュアが、主の使いの前に立ち、サタンがその右に立って、これを訴えているのを私に示された。」ゼカリヤ書 3章 1節:口語訳、

とあるように、救済の後も、人間に罪を犯させた神の敵であるサタンは攻撃の手を緩めず、人間の救いを喜ぶどころか、逆に神と人間に対し激しくバッシングを続けている事実である。だから我々人間が神を信じても苦勞が耐えない。クリスチャンであっても罪を犯すし失敗もする。その度に悪魔は細かいことまで指摘してヤイヤイ言うのである。でも大丈夫。

「もし罪を犯したとしても、父なる神の前で弁護して下さる方がおられます。その方は、イエス・キリストです。」1ヨハネの手紙 2章 1節:LB。とあるように、ここでもまた救い主キリストが

我々のピンチの度に救って下さるのである。神を信じクリスチャンになったら後は何もしないで
良いわけではない。十字架にかかり我々を罪の POW 状態から救って下さったキリストに、これか
らも日々助けていただき進むのだ。彼は我々を罪と罰の中に決して置き去りにはしないから。

2014-7-13

